

令和元年度 大阪府立狭山池博物館運営審議会 議事要旨

日時 : 令和2年2月3日(月) 18:00~19:49
場所 : 大阪府公館 大サロン
出席者 : 委員) 磐下委員・岡田委員・木原委員・金田委員・小山田委員・佐伯委員・中川委員・
向山委員(会長)・森委員 計9名
事務局) 武井河川室長、山本河川環境課長、山本河川整備課参事、
尾花富田林土木事務所長、工楽館長、吉井副館長
関係者) 大阪狭山市教育委員会 山崎部長、大阪狭山市都市整備部 楠部長
大阪狭山市政策推進部 田中部長、狭山池まつり実行委員会 菊屋会長

まとめ

(1) 狭山池博物館の効果的、効率的な運営について

- ・ 中間答申で示された方針に沿って実践された運営の効果と次年度以降の取組みについて、その内容や方向性が中間答申に沿ったものとなっているか、さらに改善する点は無いかなど委員の意見を伺った。

概要

(資料に基づき、事務局より説明)

〔各委員の主な意見〕

〔磐下委員〕

- ・ どのような取組みを行えば、どの目的・指標の達成に繋がっていくのかということをもっと検討していく必要がある。
 - ・ 様々な取組みが提案されているが、個々の取組みが縦割りになってしまうのではなく、有機的につなげることができれば、取組みをうまく整理することができ、目標や指標の達成に結びつけることができるのではないかと感じた。
例えば、古文書講座と防災講座の参加者の関連を整理することで、参加者の拡がりや講座内容の充実につなげることができるのではないか。
- (事務局回答) 今後検討していきたい。

〔岡田委員〕

- ・ ホームページ改良では、水辺の写真を入れるなどして、狭山池の水辺と博物館が共存しているということを少し強調するとよいのではないか。
- (事務局回答) ホームページの充実の取組みの中で対応する。
- ・ 成果指標の設定において、0%増のような指標では、基準年や期間の設定についてどのように考えているのか？
- (事務局回答) 現在検討しているところであり、ご意見をいただき検討を進めていきたい。

〔木原委員〕

- ・ ターゲットに対して伝えたいことが届いているかアンケート等で確認分析し、ターゲットであるお客様側からの視点で考えることで、成果指標が明確化するのではないか。
 - ・ 成果指標の設定において、地域活性化イベント回数が増が挙げられているが、地域の人たちに博物館に来てもらうことで来館者数を増やすために行うのか、それとも、地域を活性化することで博物館への来館者を増やすために行うのかを考えることで、イベントの内容やターゲットがはっきりするのではないか。
- (事務局回答) 運営側の視点だけでなく、利用者の需要なども確認して、イベント内容や指標を考えていきたい。

(金田委員)

- 狭山池周辺の回遊性向上のための遊歩道整備にあたっては、歩行者と自転車の事故が問題になっている事例もあるので、対策等考えてもらいたい。
 - 案としてあげられている成果指標の項目数が多すぎるのではないかと。項目数よりも全体として活性化することが重要。項目数が多くなりすぎると形式的になりがちである。
- (事務局回答) 現在検討しているところであり、項目の絞り込みをせず考えられるものを全て記載している。ご意見をいただき検討を進めていきたい。

(小山田委員)

- 博物館事業を推進するにあたっては府民や地域住民の理解が必要。最近の博物館をめぐる一般論として、「開かれた博物館」「地域と共につくる博物館」「税金を使っているけれども、その価値があって暮らしに役立つ博物館」という三つの原則がある。いきなり事業の各論を説明するよりも、このような博物館をつくるために効果的・効率的な事業を行っているということ、わかりやすい表現で記載し、府民理解を求めた方がよいと思う。
- (事務局回答) 府民や地域住民の理解を得るために資料作成の際に反映させていきたい。
- 短期目標の取組みについても、事前に PDCA を考えてすすめた方がよい。
- (事務局回答) 短期目標の PDCA サイクルについては、関係者による会議等で進捗管理をしながら取組みを進めているところ。
- 今の取組みに加えて新たにできることは限られてくる。現体制で新たにどれだけのことができるのか、具体的なことを検討されているのであれば、示された方がより具体的な議論ができると思う。
- (事務局回答) 新たな取組みについては連携を活用して現体制でできる形でやっていきたいと考えている。
- 過去に狭山池博物館のロゴマークを作成してははず。活用してみてもどうか。

(佐伯委員)

- アンケート回収の改善のため、インターネットを活用してみてもどうか。
- (事務局回答) 来年度より館内 Wi-Fi を導入する。インターネット活用も検討していく。
- ホームページの背景色について、必然性のあるシンボルカラーを設定すると効果的だと思う。
- (事務局回答) ホームページ改良の取組みの中で検討・実施していきたい。
- SNS での情報発信について、どのような展開を考えているのか。博物館ブログが開設されているが、若者はあまりブログを見ないので、SNS のハッシュタグを有効に利用してみてもどうか。
- (事務局回答) 現在博物館ブログにあげている記事を SNS で発信していきたいと考えている。
- 府の東京事務所と連携して東京での PR をすることで、博物館の認知度も高まるのではないかと。
- (事務局回答) より広い視野で、新たな連携先と取組みの掘り起こしを実施していきたい。
- 全国ドボジョサミット (ドボジョ = 土木系女性) と題したイベントを開催してはどうか。大阪狭山市・狭山池博物館は土木系女性を応援していますという広い意味の社会貢献を意識すると新しい可能性が開けるのではないかと。

(中川委員)

- 取組みがどのように指標に結びつくのかイメージできない。例えば、QR コードをどう活用し、その結果どうなってどの指標に結びつくのか、というつながりを具体的に考えるべき。
- (事務局回答) 現在検討しているところであり、ご意見をいただき検討を進めていきたい。
- 防災講座をホームページ上でオープンコースウェア化すれば、博物館での講座に来た人だけでなく、インターネットを通じて多くの人に発信できるし、データの記録としても残る。
 - 参加体験型の催し (防災マップづくりなど) をすることで、体験した人が他の人に面白い体験をしたことや博物館のことを伝えることに繋がると思う。
 - まちづくりのネットワーク構想はすばらしいと思うが、狭山池の利用者をどのようにして博物館に誘導するのかということを考えるべき。
 - 新たな収入について、基金を立ち上げて活用することを検討してみてもどうか。

(向山委員)

- 安藤建築について説明できる人材がないという課題は、建築関係の団体との連携によって解消できるのではないか。
- 狭山池の利用者の博物館への誘導が重要な課題だと思う。

(森委員)

- 博物館ボランティアの活動の中で出た様々な意見・提案をもっと取りあげて支援してほしい。また、審議会等の意見交換の場が出た意見をどんどん現場に還元してほしい。
→ (事務局回答) 現場の意見について、できるものから取り入れていきたい。また、意見交換の場に出てきた意見の現場への還元も実施していきたい。
- 水庭の水質・壁面の汚れがひどくなっている。20周年に向けて壁面だけでもきれいにすることを組み案に入れてもらえないか。
→ (事務局回答) 20周年までにどこまでできるかというところはあるが、壁面清掃・水質浄化設備の補修について調整していきたい。